

おれんじニュース



No 245

2010年8月号



岩井川からミヤマキリシマ、ベニドウダンを手前に、遠くに扇ヶ鼻を見る。6月13日

★集会・委員会・行事関係のお知らせ★				★山行の一步は会合から★		
	8月			9月		
運営委員会	10日(火)	19:30~22:00	西諫早公民館	14日(火)	19:30~22:00	西諫早公民館
ひまわり集会	6日(金)	13:30~15:30	西諫早公民館	3日(金)	13:30~15:30	西諫早公民館
全体集会	24日(火)	19:00~22:00	西諫早公民館	28日(火)	19:00~22:00	西諫早公民館



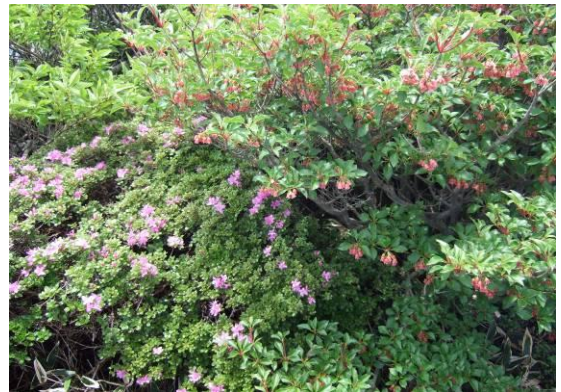
まずは、準備体操でしょう。



わあー！ベニドウダン咲いてる！



ミヤマキリシマも咲いてるね(^◇^)



ミヤマキリシマとベニドウダンのコラボ



イワカカミも少し咲いてる



オカオグルマ瀬の本登山口にて



マイズルソウ



とにかく風の強い日でした。＼(^o^)／



お風呂に入ってさっぱりした所。



8月の山行計画

部	技術研修部	ひまわり& 自然保護部	山行部
月 日	7日(土)8日(日)	20日(金)	29日(日)
山 名 (行 事)	金泉寺小屋泊山行	雷山(955m)	久住山群 花牟礼山(1170.3m) 崩平山(1288.4m)
地 図	多良岳	雷山	大船山
集 合 出 発	JR西諫早駅 9:00	JR 西諫早駅7:00	JR諫早駅裏 6:00 JR西諫早駅 6:10
帰 着 時 間	17:00 頃	17:00 頃	19:00 頃
歩 行 時 間	1日目(6H) 2日目(6.5H)	3.5 時間程度	6時間程度
難 易 度	中級健脚	初心者	やや健脚むき
交 通 手 段	マイカー	マイカー	マイクロバス
宿 泊 施 設	金泉寺	日帰り	日帰り
温 泉	なし	古湯温泉	有り
参 加 費	3000 円	1500円程度	5,000 円
申 込 期 限		満員になりしだい	満員になりしだい
集 約	岩田	江崎	田中
備 考	これからの山にむけて 体力をつけるその2	頂上には巨岩あり雨 もしのげる大岩です。	秋はリンドウやヒゴタイ 等花群れである
感 想 提 出	8/15(日)まで	8/28(土)まで	9/14(火)まで

夏のアルプス計画

○奥穂高岳山行(バス1泊 山小屋3泊)

8/4(水)諫早発 20:19~8/8(日)諫早着 20:39

○北アルプス黒部源流 赤牛岳(山小屋6泊)

9/3(金)諫早駅発6:21~9/9(木)諫早着

※申込は川原まで

訂正してお詫びいたします。

おれんじニュース5月号6ページ(2)新役員 副会長に富永徳磨氏の記載漏れがあり、ご迷惑をおかけしました事、ここで訂正してお詫びもうしあげます。



9月の山行計画

部	ひまわり山行部	山行部	技術研修部
月 日	10日(金)	19日(日)	25日(土)～26日(日)
山名 (行事)	背振山(1055m)	阿蘇外輪山: 俵山(1094.9m)	鹿児島県高隈山系、 御岳(1181.6m)、 第一刀剣山(635m) 第二刀剣山(660m)
地 図	東背振	立野、阿蘇山	上祓川
集合 出発	JR 西諫早駅 7:00	JR 諫早駅裏 6:00 JR 西諫早駅 6:10	JR 諫早駅裏 6:00 JR 西諫早駅 6:10
帰着 時間	17:00	19:00 頃	19:00
歩行 時間	4.5時間	5 時間	1 日に 4 時間～4.5 時間
難 易 度	初心者	初心者	初心者
交通 手段	自家用車	マイクロバス	マイクロバス
宿泊施設	日帰り	日帰り	バンガロー
温泉	なし	有り	有り
参加費	1500 円程度	5000 円	15000 円
申込期限	満員になり次第	満員になり次第	満員になり次第
集約	江崎	田中	佐原
備考	昔ながらの自然あり 背振山地の最高峰	マツムシソウに あえるかも	タカクマホトギス を見られるかも
感想提出	9/20	9/30	10/10

技術研修部より

7月31日(土) セルフレスキュー(JR西諫早駅 9:30 集合)

8月12日(木) 沢登り(JR西諫早駅 9:00 集合)

8月22日(日) セルフレスキュー(JR西諫早駅 9:30 集合)

9月16日(木) 沢登り(JR西諫早駅 9:00 集合)

9月23日(祝) セルフレスキュー(JR西諫早駅 9:30 集合)

県連だより

①原爆遺構めぐり

日時:8月7日 浦上駅9時半出発

案内人:平和推進協の橋本氏

締め切り:8月3日(定員30名)

②平和登山

日時:8月7日 浦上駅9時半出発

ガイド:県連理事 富永氏



登山フェスタ in 黒木(開催されます。)

日時:9月4日(土) 16:00 受付~5日(日) 15:30 終了

場所:黒木

内容:9/4=開会、交流会、山行報告

9/5=自然観察、経ヶ岳、多良岳、沢(初・中)5コースにわかれて実施

参加費:宿泊1000円、日帰り300円、 駐車場代500円(1泊)、日帰り(300円)

参加申し込み:会単位で申し込む(締め切り8月24日)

申し込みは松園、坂口まで。



6月・7月の山行報告

6月13日(日)

九重山系 岩井川岳、扇ヶ鼻

(参加者) 篠原、鎗水、田中(し)、松園、山下、兵庫、
中須賀、川原、佐原、森(す)、下釜、林、 (12名)

(行程) 西諫早駅前 6:05-(高速自動車道)-9:15 瀬の本登山口 9:30-11:10 岩井川岳
11:20-12:00 扇ヶ鼻(昼食)12:40-14:00 瀬の本登山口 14:30-14:45 国民宿舎
久住高原荘(入浴)15:50-(高速自動車道)-19:05 西諫早駅

(感想) 梅雨期と言うのに雨のない天気が続いていたが、前日夕方から怪しくなり、とうとう朝は雨になった。ザックカバーをつけ傘をさして西諫早駅へ向かう。梅雨期であり覚悟はしていたが、やはり気持ちはさえない。

金立SAで休憩の後に雨もやみ青空がのぞきだしたのも束の間で、また雨は降り出す。車内では「今日は登山中止で温泉巡りや酒蔵巡りになるだろうと予測して参加した」と言う声も多い。「まずは登山口まで行ってどうするか決定しよう」と言うことで車は進む。

牧ノ戸峠を越えると道路はあまり濡れてない。やまなみハイウェイから瀬の本登山口への分岐点には、口蹄疫対策の白い消毒薬が道路一面に撒かれている。テレビのニュースで

はよく見ているが、実際に目にするのは初めて。畜産家の苦悩を思うと胸が痛む。



登山口では雨もなく登山決定。2班編制で出発する。林道歩きの後樹林帯にはいる。

ガスはあるが雨の心配はなさそう。しかし尾根筋へ出ると強烈な風である。

岩井川分岐から岩井川岳へは笹原の台状草原になっていて、我が物顔に風が吹き付ける。岩井川岳へと向かう途中、ザックカバーが風で飛ばされるアクシデント発生。雨具を取り出し易いようにと、カバーを固縛せずザ

ックに被せていたため強風で外れたのだ。

さいわい空中に舞い上がらず、笹がブレーキをかけたように滑っていったので、追いつき回収することが出来た。「手間を省くことより基本に忠実であれ」との教訓を得た。

台状草原に点在するミヤマキリシマが、あたかも浮島の如く見える。平治岳の絨毯を敷き詰めたような、あでやかなものとはまた違った趣のある景観は、これまた好きである。

分岐から扇ヶ鼻へ向かう台状笹原の強風は真横から吹きつける。よろけて細い登山道から笹原へ度々押し出される。身体を斜交いに構え足を踏ん張って風と闘いながら歩く。こんな強い風の山行は初めての経験である。これに雨がついていれば全く悲惨だと思う。まあこれくらいは良しとすべきか。

扇ヶ鼻の樹林帯に入るとドウダンツツジのトンネルだ。赤、ピンク、オレンジなど色とりどりに咲いている。鈴なりの花は果実にも見える。特に赤色はグミの実を連想し、おもわず手に取り口にほおぼりたくなる。戦中派のさもしい根性か。



スズメバチ撃退装置中に蜜と毒

扇ヶ鼻山頂へジャスト12時到着。風は衰えることもない。皆岩陰やツツジの陰に風を避け防寒着をつけて昼食をとる。山頂での集合写真もお預けである。

肥前ヶ城への登山と牧ノ戸峠への下山は、この風では非常に危険だと判断し、来た道に戻る事となった。

扇ヶ鼻は初めてである。今まで、九重連山の中では安易な山としてあまり興味を持たなかったが、今日の風との戦いは、印象に残る山のひとつとして数えられるであろう。

(兵庫 記)

6月17日(木)

岩登り

(参加者) 川原、坂口、松園、山下、森田、林田、下釜、田村

梅雨に入って間もない時期に晴れ間が見え、今日は絶好の岩登り日よりである。

坂口さんの車と森田さんの車に分乗して井樋ノ尾権現に向かった。今日は雲仙の牛首岩の予定だったが昨日の雨で岩場が濡れている事を懸念してこちらに来た。

かなり道路も荒れていて坂口さんも真剣なハンドルさばきである。目的地まで30分ぐらいかかった。

まずは、ロープの結び方の練習。グリーンやダブルグリーン。簡易ハーネスの付け方等。

そこから15メートル程の岩場(正確には山を削り取りネット掛けした上部)に坂口さん

と川原さんがロープを設置された。圧倒される高さである。慣れた人はスルスルと懸垂下降をはじめられた。

気持ちとしては「うまい方を見ていよう」って思ってたのも事実である。が、いざ、ハーネス、ヘルメットを身に付けると身体が自然に岩の頂点に進みドキドキする事もなく下降する事が出来た。皆さまの激励のおかげである。こんどはもっと高い所からの下降に挑戦。

無事、懸垂下降ができて満足した。

昼食後はシュリングを使っての登りにはいった。岩場の頂上に垂らしてある1本のロープに2本のシュリングを巻いて一方を腕で引き上げもう一方は足にかけて足の屈伸で身体を引き上げる。右足をかけて左足でバランスをとり階段を想定して登る理論らしいが、やってみるとお尻が下がってしまい、手助けしてもらったが途中で断念した。



ベテランの仲間に入って、いろんな技をみせてもらい充実した一時でした。みな、若々しく学生の部活動をやってる感じであった。

山行で岩場に遭遇することは結構多いから、ロープワークに岩登り沢登が役立つのは確かである。

豊富な経験をお持ちの方々が計画してくださるから安心して参加できる。私は人生の後半で入会し厚かましいと思いつつも次回を心ひそかに楽しみにしている。

本当に、今日はお世話になりました。
(田村満子)



6月20日(日)

阿蘇 根子岳(1408m)登山

～オオヤマレンゲの花を求めて～

参加者

1班：福岡・山下・森田・田中(静)・岩永(幸)・下釜・國分

2班：中須賀・松園・森(寿)・田村・林田・兵庫

ゆっくり班：佐原・林(孝)・川原

行程：西諫早駅 6:10ー益城ICー鍋の平ーヤカタガウド登山口 10:00 着登山開始 10:10ー竿河原 11:20ー天狗岩コル 12:15ー行動食 10分ー下山ー2:30 登山口着ー3:00 出発ー簡保の宿、入浴ー菊水ICから高速ー諫早着 8:30

感想：雨の心配をしながら6時10分に西諫早駅を出発。

総勢15名+神辺(鳥栖の近くの高速バス停)で國分さんに乗せて一路阿蘇を目指す。

車の中では山下さんが昨年このルートに登った時の状況説明と注意事項。

二ヶ所ほど休憩をし、益城ICで高速を出る。

途中阿蘇南休暇村の近くに奇妙なデコボコの山(岩?)があり「ラクダ山」というとのこと。



休暇村南阿蘇の少し先から大きく左へ曲がり、少し進んで右にまがり、細い道に入りやがて林道となってきた。

林道の途中の「鍋の平」でお手洗い休憩をしようとしたが、カギがかかっていたので別の場所で。

少し進んだ所で阿蘇の赤牛を10頭ほど見かけ、口蹄疫の話題に。(ここはまだ大丈夫そう。)

また森さん曰くこの牛は大変おいしいとのこと。(私もいつか食べてみよう。)

日ノ尾峠を越え10時ごろ登山口ヤカタガウド着(5台ほど先着あり。)

中須賀さん曰く「ウド」とは谷のこと。

準備を始めおのおの準備体操後10:15出発。小雨の為、半数はレインウェアを着て出発。

コンクリート道をゆっくりと登っていたら、途中赤やオレンジ色の木苺が沢山あり皆で頬張る。(懐かしい味がした。)道端にはちらほら「シモツケ:ピンク色」、「くらら:紫色」、「山アジサイ」、「ウツギ:ピンク色」などがあり、花好きは楽しみながら登って行く。(この後のハードなコース?になることは知らず。)

途中砂防ダムを3箇所ほど越え、清流に入る。登山道と思いきや何か沢登りの状況。

登り難いロープ場が3箇所ほどあり、すべらないよう慎重に進む。川の両岸は10数mの切りたった所で、紅葉の季節は見ごたえがある所である。

やっと川から山道への天狗岩の分岐に到着。ガレ場が終わったと思いきや今度は急登の山道へ。トランシーバーでゆっくり班へ連絡をとり、まだ目的のオオヤマレンゲは見つけてないと連絡。

少し登った所で、先頭より第一声「あったよ」。

初めて真っ白な気品のあるオオヤマレンゲを見ました。

(いままでオオヤマレンゲとは木に咲く花と知らず、レンゲ草の仲間?ぐらいに考えていました。)

そこから、つぎつぎに花が現れ、雨の中みんなカメラのシャッターを押していました。

雨もひどくなり、前も見えないほど霧も深く、下釜さんが「この辺で下山しては」との声も。

出発から約2時間12時ごろ天狗岩着。天狗岩は狭く切り立った岩山で、頂上から覗き込んだが、雲(霧)で何も見えず残念。晴れていれば大変景色がいい所のようなのである。

雨もひどくなり東峰へは道も悪く、福岡Lの判断にて登頂を断念。(今度は天候が良いときに来ましょう。)

頂上の少し下の木の影で10分少々の昼食(行動食?)を取りすぐ下山。

下山途中今日初めて会う登山者の若者が1名登ってきた。

途中ゆっくり班の3名と合流し、気をつけながらどンドンと下って行く。

先頭は14:30登山口着。大雨でバスの中で着替え。15:00ごろ出発。

簡保の宿阿蘇で風呂に入り帰路。バスの中での感想でHさんはこのコースは次は誘われてもお断りしたいとのこと。Nさんは替え歌でこのコースはもうこりごりとのこと。

天候も悪くハードなコースでみなさんお疲れでした。

(森田記)



7月4日(日)

県連登山教室に参加して

講師：稲田米穂（へバルナ山の会）

参加者：木村、馬場、浜田、北島、富永、山下、酒井、？

いつも川原さんの熱心な指導の下岩登りや沢登を楽しんできたが、他の方の指導はどんなものだろうと思い参加してみる事にした。今年初めての沢だと準備等忘れ物があるかもっと1日(木)の沢(オレンジ主催)も参加した。この時は小河内の左俣にいった。県連は初心者だということで多分左俣だろうと見当をつけた。

当日(県連)は予想外の事だらけ。まず、集合場所、県連では黒木の県営駐車場と云うことだったが、実際には黒木の市営駐車場。また、当日は予想外に雨が多く、小河内は水量がかなり多かった。誰かの話によると、いつもの3倍近くとのこと。また、この日の参加者は私以外は皆さん、ベテランばかり。とても初心者らしい人はいない。駐車場で待ってる間に稲田さんが沢の水量を見に行かれたが、水量はおおいが沢登が出来ないほどではない、せっかくだからやろうと決まった事。しかもコースは右俣だった。



沢登を始める前にしばらくロープ結びの講習があった。これはいつもロープワークで教えて貰ってるから、ベテランの皆さんと同じようにすぐ理解できた。ダブルブルーリンは人に教えてあげる事も出来た。川原さんのお陰である。

それから、沢に入った。こんなに水量の多い沢は初めてである。砂防ダムがいくつかあって脇の方を巻いてあがる。上がる所も滝のように水を浴びる。皆、装備がすばらしく、膝から下にかけてプロテクターのようなもの付けておられる。私は磯足袋が大きく脱げそうになるので今回はその上からわらじをはいたが、紐の締め方が不備ですぐ脱げてしまった。それでも必死に稲田さんの行った通りに跡をつけて行った。最初の大滝はロープを張って貰って一人ずつ渡った。途中、その支柱が折れて一人滑落するというアクシデントも目のあたりにした。幸いたいた怪我もなく後も普通に参加された。若いからだと思った。もちろん技術も。大滝が重なってあるところは右のがけを這い上がりここから下山するのかと思いきや上までいかないと登山道に出ないという事で一旦這い上がった崖を滝の先あたりまで進んで懸垂下降をしてまた沢に下りた。この時時間は2時近くで、雨もひどくなり弁当も食べていない。途中でもらった干し柿の美味しかった事。結局最後の滝に行きつく前に砂防ダムが新しく作られてそこから作業道路(コンクリート道)を下りて来た。黒木のゲートボール場で遅い昼食を摂りひとしきりロープワークをして4時頃家路についた。(山下記)



7月10日(土)

多良山系(佐賀県・長崎県)：郡岳(826m)～遠目山(849m)～経ヶ岳(1076m)

参加者：福岡(CL)、岩田(SL)、川原、篠原、森田、山下、田中(静)、國分、林田、下釜
兵庫、坂口、こもれび(藤瀬、鶴野、吉田) 山崎(元)、 16名

行程：西諫早駅発(7:00)～郡岳南登山口着(7:40)・出発(8:05)～郡岳山頂(9:10)・出発(9:30)
～遠目山山頂着(10:25)～春日越着(10:55)～岩屋越着(11:37)－昼食－出発(12:10)～
たぬきだまり(12:40)～つげ尾(13:50)～経ヶ岳山頂(14:20)～舞岳(15:00)～
黒木駐車場着(16:20)～

感想：

梅雨の明けきらぬどんよりとした日だった。グリーンロードは少し小雨もぱらついてたが南登山口では雨は降ってなかった。簡単なストレッチをしていざ出発。福岡リーダーの後をひたすらついて行ったがいきなりハイペースである。郡岳頂上では「もっとゆっくり」の声もありラストの岩田さんが上がってこないで2班に分かれて先に進むことにした。先発は福岡、山下、森田、兵庫、田中(静)、山崎この6名。雨が降ってこず、日も



射さずでまあまあの気候。長丁場なのでゆっくりと行きたい所だが郡岳頂上で後れを取った分下りは走るように歩く。いきなり夫婦づれのイタチとも遭遇した。マムシにも。身体の模様もしっかり見た。大きいガマガエルは誰かの要望でカメラに納めた。無線機の交信は岩屋越辺りからさっぱり機能せず。雲行きもあやしいので先発隊として先へと進んだ。岩屋越辺りで行程どおりに進んでる事を告げたらここで昼食をとった。しばらく行くと‘たぬきだまり’である。ここはいつか岩登りできた所。それからちいさいピークを幾つか越えてつげ尾に来た時はほっとした。あとは経ヶ岳に登って

下るのみ。

しかし、経ヶ岳に登って感慨にふける暇はなかった。つげ尾あたりから降り始めた雨が本格的に降り出し雨具を付けることに。さんざん疲れた身体に雨具の重く感じる事。先月、根子岳東峰の時の教訓がみにしみてるので雨具は上下付けることにする。経ヶ岳の頂上の切り取られた枝を福岡さんは初めてみたと言いながら下山する。舞岳コースは急登だが、予定通りこちらのコースを降りる。急な下りも疲れた足に應える。しかし、足を滑らすと谷底まっさ



かさまというコース。最後の最後まで気の抜けない山行だった。もう少しさわやかな気候に朝早い時間からスタートしてたらと、少し考えた私でした。皆様、お疲れ様でした。

(山下記)



まずはストレッチ



阿蘇の花クララ



携帯でカシャッ！うまい！



タンナサワフタギ



コゴメウツギ



一面のオオヤマレンゲだった。



ハンカイソウ多良林道にて



霧の中の天狗岩



フタリシズカ金泉寺近くで



雨にも負けず皆、笑顔
根子岳東峰へ
ヤカタガウドコース



多良、笹岳方面の
山アジサイ7月7日



おれんじニュース No245	
発行元	オレンジハイキングクラブ
発行責任者	福岡正廣
編集責任者 及び 原稿送付先	山下ちず子
発行年月日	2010.7.27
財政担当	
郵便振替口座	
ホームページ	http://orangehikinngclub.web.fc2.com/



金泉寺から笹岳へのヒメシャラ